

駐在員だより

「ミシガンの識字と経済」

アメリカでは小学校 3 年生レベルの読み書きができない成人が 3,600 万人いるという調査報告がありました。プロリテラシー (ProLiteracy) という団体の調査に基づくものです。また、ミシガン州デトロイト市で行われた調査では、17 歳以上人口のうち、日常で必要とされる読み書き、会話、コンピューターのスキルがない人がほぼ半数に上ることも明らかになったそうです。

文字が読めないことによって、仕事に就けないだけでなく、医薬説明書が読めないために健康リスクが高まり、コンピューター社会で取り残され、地域経済の停滞を招くと言われています。

ミシガン州の失業率に目を向けますと、2009 年 (平成 21 年) 9 月には 15.3% を記録していましたが、少しずつ改善され、2015 年 (平成 27 年) 9 月は 5.0% までになりました。2015 年 9 月の全米平均失業率が 5.1% ですから、全米平均を下回っています。非常に厳しかったミシガンの景気は回復してきています。

自動車産業が好調だという背景がありますが、デトロイト市の失業率は 11.5% と非常に高い数字を示しています。ミシガン州全体としては好調で、デトロイト市も回復してきているけれど、それでも「まだまだ」というところでしょうか。

ミシガン州教育局の職員が話してくれました。彼は 40 代後半ですが、高校時代、大学への進学希望を両親に伝えたところ、「なぜ、そんなことを考えるのか。すぐに工場で働けばいい。そうしたらお金が入ってくる。工場で働くのに学問はいらない。大学に行く時間が無駄だ」と言われたそうです。こういう発想が根本にあると、識字率も高くはならないでしょう。(ちなみに彼は、両親の反対を押し切り、大学を卒業しています。) ミシガン州の産業は製造業が中心です。製造業には識字は必要なかった時代があったかもしれませんが、現在は状況が変わってきています。デトロイト市の産業構造も変化してきています。ダウンタウンには多くの若者が集い、IT 関連産業が急成長しています。そこでは、IT 機器が使えないと仕事にならない、文字が読めないと仕事に就けないという状況です。

経済状況が好転した。“カムバック、ミシガン!” だから、文字は読めなくてもいい、ということにはなりません。経済が好調な時だからこそ、安定した経済成長に移行するために、識字率の向上を目指してもらいたいと思います。